

## 第 63 回日本救急医学会関東地方会 幹事会 議事録

日 時：平成 25 年 2 月 16 日（土） 12：00～12：55

場 所：帝京大学板橋キャンパス 大学棟 2 階 204 教室

### ■新幹事推薦（堀常任幹事長）

新幹事 20 名の推薦が行われた。今回の候補者については、会員歴、会費納入状況等資格について事務局が調査済みであり、先に行われた常任幹事会で承認済みであることが報告された。新幹事 20 名が承認され、出席の新幹事 13 名より就任の挨拶があった。

### ■常任幹事・監事改選について（堀常任幹事長）

常任幹事・監事の任期満了に伴い、役員を選任に関する選挙がおこなわれることが通知され、締め切り期日の 2 月 9 日までに 6 名の常任幹事の立候補と、2 名の監事の立候補があったと報告された。日本救急医学会関東地方会会則施行細則第 17 条 4 「届け出のあった候補者が定数を超えないときは、候補者を当選人とし、投票は行わない」に従い、候補者 8 名を当選とすることが確認され、幹事会にて承認された。

### 《報告事項》

#### 1. 庶務報告について（矢口常任幹事）

2012 年 12 月 31 日時点での総会員数は、1,095 名であり、2012 年度新入会者は 179 名、退会者は 98 名との報告がされた。

3 名の会員の逝去が報告され、黙祷がささげられた。

#### 2. 各常任幹事担当報告

##### ①看護部会報告（佐藤憲明看護部会運営委員長）

看護師の学術集会への積極的な参加を促し、看護部会の活性化を目的として、看護部会運営委員会の下部組織に施設代表者会をおき、本日第 1 回の施設代表者会が開催され、約 40 名が出席したことが報告された。

看護部会運営委員会では、施設代表者会設置に伴い、看護部会会則の改正作業が行われたことが報告された。

##### ②救急隊員部会報告（横田常任幹事）

平成 25 年 2 月 8 日に、第 50 回救急隊員学術研究会が帝京平成大学池袋キャンパス沖永記念ホールにて開催され、シンポジウム 1 題、教育講演 2 題、パネルディスカッション 1 題、一般演題 5 題が行われ、1,040 名の参加があり、活発な討論が交わされたことが報告された。

### ③SOS-KANTO 報告（矢口常任幹事）

2012 年 1 月 1 日から SOS-KANTO 2012 の症例登録が、68 施設にて行われ、約 9,000 症例が登録されていることが報告された。委員会内の活動としては、コアメンバーによる運営小委員会会議が 3 回、全体会議が 2 回開催され、活発に活動しているとの報告があった。

2013 年 1 月末時点で 9,000 例を超える症例が事務局に回収されることから、3 月末までの症例登録で目標の 10,000 例に達する見込みであることが報告された。参加施設からは多くの解析テーマの申請があり、今後は回収されたデータを用いて、学術集会での発表も頻繁に行われる予定であると報告があった。

### ④編集委員報告（森村常任幹事）

『日本救急医学会関東地方会雑誌』第 33 巻が、2011 年度と同様の手順にて編集作業が行われ発行されたこと、94 本の投稿論文が掲載され、投稿率は 33.6%、論文受理率は 98.8%であったことが報告された。ページ数が増加したことも併せて報告された。

また、これまで常任幹事会で審議された発表論文の位置づけについて、発表論文は「症例報告」ないし「原著論文」とすることとなった経緯の確認があった。

「症例報告」「原著論文」とすると、看護部会、救急隊部会からの投稿に対応するのが難しいとの意見が編集委員会で挙がったため、他学会を参考に「症例報告」「原著論文」ではない他のカテゴリを今後設けることが報告された。

第 63 回日本救急医学会関東地方会のプログラム・抄録集は、日本救急医学会関東地方会雑誌 34 巻 1 号として作成されたことが報告された。

### ⑤ホームページ報告（猪口常任幹事）

本会ホームページは、SOS-KANTO ページを中心に頻回に更新が行われていることが確認された。

本会の組織図、および常任幹事・監事の申請書式をダウンロード形式にて本会ホームページに掲載したことで、ホームページ内容も充実していると報告された。

## 3. 第 63 回日本救急医学会関東地方会報告（坂本会長）

「変革期を迎えた救急を見据える」とのテーマで開催されている学術集会には、シンポジウム 3 題、招待講演 2 題、教育公演 1 題を予定しており、医師部会 237 題・看護部会 37 題

併せて 274 題との、多くの演題登録があったことが報告された。

本日 12 時の時点で、医師部会看護部会には、553 名の参加者があったことが報告された。

## 5. 第 64 回日本救急医学会関東地方会報告（兼坂次期会長）

「繋げ救急の志」のテーマで、2014 年 2 月 1 日（土）にパシフィコ横浜会議センターにて第 51 回救急隊員学術研究会と第 64 回日本救急医学会関東地方会を同時開催する予定であることが報告された。

### 《審議事項》

#### 1. 2012 年度決算報告（矢口常任幹事）

収入については、予算より約 622,510 円の増収であった。支出については、SOS-KANTO の症例登録開始や、運営小委員会開催により 1,478,923 円の支出があり、予備費として計上された 500,000 円を、SOS-KANTO 人件費としたことが報告された。収入合計 6,974,510 円、支出合計 8,087,159 円となり、最終的には 1,112,649 円の赤字となった。

兼坂監事より 1 月 23 日に事務局にて誤りのない収支決算報告書および付随の帳簿等の監査を行われており、全ての処理が適正であることが報告された。

幹事会資料の決算報告書予算部分に計算間違いがあったが、その場にて修正され、報告ののち、2012 年度決算が承認された。

#### 2. 2013 年度予算について（矢口常任幹事）

収入については、例年予算額より会費収入が多くあることから、2012 年度予算より 300,000 円増額の 6,300,000 円としたこと、銀行預金利息は、例年の決算額を鑑み 200 円としたとの説明があった。支出については、2012 年末に発刊された学会誌刊行費を学会誌のページ数増加に伴い 3,500,000 円としたこと、SOS-KANTO 2012 の事業費として 1,853,300 円の予算を組み込んでいることが説明された。SOS-KANTO 事業費の内訳の多くは人件費であり、データ入力をしている非常勤社員および、SOS-KANTO 業務の増加に伴う㈱へるす出版事業部への事務局人件費であることが説明された。

また、事務局委託先の㈱へるす出版事業部より、SOS-KANTO の業務の増加について、業務委託費の再検討および、業務委託契約の見直しの提案があり、一部修正し、本年度の契約が行われたことが説明された。

SOS-KANTO は本会の大きな事業であるが、この先継続するものでないこと、これまでの繰越金が多くあることから、マイナス予算を立てていることについて説明された。

また、SOS-KANTO の研究の基礎データが閲覧できるなど、全会員に SOS-KANTO の特典を付与すべき考えであることが報告され、2013 年度予算案が承認された。

3. 名誉会員の推戴について（堀常任幹事長）

常任幹事会で、大橋教良幹事と相馬一玄幹事を名誉会員に推戴し、就任の意思を確認したことが報告され、承認された。

4. 次々期会長について（堀常任幹事長）

2015 年開催の日本救急医学会関東地方会の会長について、常任幹事会にて東海大学医学部の猪口貞樹先生の推薦があり、承認された。

猪口次々期会長より挨拶があった。

《その他》

1. 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会について（堀常任幹事長）

2013 年 10 月 21 日（月）から 10 月 23 日（水）に東京国際フォーラムにて、第 41 回日本救急医学会総会・学術集会が、「救急医学とセーフティネット」とのテーマにて第 7 回アジア救急医学会と同時開催される予定であることが報告された。

以上

[議事録作成：事務局 松本 舞]

議 長： \_\_\_\_\_ 印

議事録署名人： \_\_\_\_\_ 印

\_\_\_\_\_ 印